

9. 薬学部

I	薬学部の教育目的と特徴	9-2
II	「教育の水準」の分析・判定	9-6
	分析項目 I 教育活動の状況	9-6
	分析項目 II 教育成果の状況	9-23
III	「質の向上度」の分析	9-31

I 薬学部 of 教育目的と特徴

1 薬学部 of 基本的な教育目的

富山大学は、中期目標において、資料 A の基本理念を掲げている。

資料 A 富山大学 of 基本理念

本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする

(出典：国立大学法人富山大学学則第 3 条)

薬学部ではこの目標を達成するために、学部として次のような基本理念（資料 B）を定めている。

資料 B 薬学部 of 基本理念

薬学部は、薬の理解を通じて、人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成します。

(出典：薬学部アドミッションポリシーより抜粋)

薬学部では、学校教育法の改正に伴い、平成 18 年度に 6 年制課程の薬学科（定員 55 名）と 4 年制課程の創薬科学科（定員 50 名）を設置した。両学科とも、上記理念に基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムに加えて、それぞれの学科の設置目的に沿った特徴ある教育活動を行い、教養教育と専門教育を通して、社会に貢献できる優秀な薬剤師や創薬研究者を育成している。

2 薬学部 of 教育の特徴

2-1. 入学者の状況

薬学部 of 入学定員は、薬学科 55 名、創薬科学科 50 名の計 105 名としており、一般入試（前・後期）の他、薬学科において定員の約 27%にあたる 15 名を推薦入試 of 募集人員としている。また若干名を帰国生徒入試で募集しており、広く受験機会を設けている。

そして、学科ごとの県外出身者が 80%を超える状態となっており、全国から優秀な学生を選抜している。男女比率について、薬学科はほぼ男女同率となっている一方で、創薬科学科は男子 6～7 割程度といった状況にある。（資料 C）

入学者選抜方法では、アドミッションポリシーに沿った人物評価という観点から、後期日程（両学科）及び推薦入試（薬学科）で面接試験を実施し、求める学生像（資料 E, F）に見合った学生 of 確保を意識している。

資料 C

薬学部 入学者の状況

出身別	年度						男女比率	年度					
	22	23	24	25	26	27		22	23	24	25	26	27
薬学科 入学者	55	57	57	59	60	56	薬学科 男%	47%	60%	54%	47%	50%	50%
県内出身者	8	11	7	4	11	8	同 女%	53%	40%	46%	53%	50%	50%
県外出身者	47	46	50	55	49	48	創薬科学科 男%	71%	65%	66%	78%	64%	59%
県内%	15%	19%	12%	7%	18%	14%	同 女%	29%	35%	34%	22%	36%	41%
創薬科学科 入学者	52	55	50	51	53	54							
県内出身者	6	5	12	9	5	7							
県外出身者	46	50	38	42	48	47							
県内%	12%	9%	24%	18%	9%	13%							

(出典：医薬系学務課統計資料)

2-2. 薬学教育モデル・コアカリキュラム

平成 25 年度に、文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」が、従来のコアカリキュラムから「薬学教育新モデル・コアカリキュラム（新コアカリ）」への改訂を決定したことを受け、その基本理念（資料 D）を反映させるため、薬学科においては新コアカリを平成 27 年度入学生から適用している。

資料 D 薬学教育モデル・コアカリキュラム（新コアカリ）の基本理念

大学における各分野の社会的要請に応えた人材養成のためのカリキュラム構築は、本来各大学が独自の理念や特色に基づいて設定すべきものである。しかし、修業年限 6 年の薬学教育プログラムを実施する学部又は学科（以下、「6 年制学部・学科」という。）の場合は、学生に大学卒業時に薬剤師としてふさわしい基本的な資質や能力を身に付けさせる教育が行われることが求められる。一方、薬学や医学、生命科学等に関わる科学技術の進歩は著しく、科学を基盤として医療に貢献する薬剤師の職責に求められる薬学の知識や技能は増え、専門分化されると同時に高度化しており、限られた大学教育の中で、これらの膨大な知識や技能等を網羅して修得することは困難である。そこで、学生は 6 年制学部・学科の学士課程教育の段階では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通に必要な薬剤師の基本的な資質と能力を修得し、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められる。薬学教育モデル・コアカリキュラムは、このような状況を踏まえ、6 年制学部・学科としての教育内容を精選し、卒業時までに学生が身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）の到達目標を分かりやすく提示したものである。

（出典：薬学系人材養成の在り方に関する検討会「薬学教育モデル・コアカリキュラム」平成 25 年度改訂版より抜粋）

2-3. 医療分野の少人数教育

薬学科及び創薬科学科において、薬学部と医学部との学部横断的な科目である「医療学入門」を提供し、医療現場に関連した実践的な教育を行っている。同じく「和漢医薬学入門」では、漢方医療についての知識と実践を理解させている。また 3 年次では「総合薬学演習」を開講し、医薬品に関する各種情報収集とその理解、発表会を行っている。これらの科目は全て、学生が少人数グループを組み、体験実習と講義を履修させるものである。

2-4. 薬学科における薬剤師の養成

6 年制課程の薬学科では、高度な職能を持ち、和漢薬を含めた広義な医療分野で活躍できる薬剤師の養成を目的とした教育を行っている（資料 E）。

「薬物治療学」や「薬物代謝学」など臨床薬学系の科目が、必修科目として開講されている。4 年次から 6 年次には、臨床実務実習と卒業研究を行う。

資料 E 薬学科の求める学生像と、提供する教育

- 1 薬剤師としての高度な学識と職能を得たい人
- 2 医薬品の研究や臨床開発に携わることで人類と社会に貢献したい人
- 3 東西医薬学の融合による統合医療の実践をめざす人
- 4 医療や保健衛生の分野で社会に貢献したい人

(出典：薬学部アドミッションポリシーより抜粋)

創造力を醸成するために

- ・ 自らが積極的に薬学関連分野の課題を見出し解決することができる「課題探求力」を養う教育機会を提供します。
- ・ 医薬品に関する情報を自ら収集・把握できる「調査力」を身につける教育機会を提供します。
- ・ 患者に対する「思いやりの精神」，ならびに病気と薬に対して深い洞察ができる「思考力」を実践的教育により涵養します。
- ・ 論理的で正確な報告書や卒業論文をまとめることができる「文章創造力」を少人数教育により養います。

責任感を高めるために

- ・ 実習やグループワーク等の実践的教育を通して、自分の果たすべき役割を認識した上で行動することができる能力を涵養します。
- ・ 患者及び薬局や病院のスタッフ等の多くの人々の立場を理解し、社会に対して責任ある行動をすることができるよう、現場での教育機会を提供します。

コミュニケーション能力を向上させるために

- ・ 討論型の教育機会を通して、相手と自分の立場と諸事情を理解し、適切なコミュニケーションをとる能力を涵養します。
- ・ 外部講師による教育機会を通して、異なる考えやバックグラウンドを有する人々を深く理解し、誠実なコミュニケーションをとる能力を涵養します。

幅広い知識を養うために

- ・ 人類の健康、福祉、衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる知識、医療人としての教養、専門家としての知識と探究心を身につける教育機会を提供します。
- ・ くすりの富山、日本の歴史と文化、外国の文化・言語等に関する知識を修得できる教育機会を提供します。

専門知識を養うために

- ・ 医薬品の安全性と薬効に関する豊富な学識を修得・応用できる教育機会を提供します。
- ・ 創薬・臨床研究に関する豊富な知識，ならびに研究に貢献できる能力を養う教育機会を提供します。

(出典：薬学部教育課程編成方針より抜粋)

2-5. 創薬科学科における研究者・技術者の養成

4年制課程の創薬科学科では、基礎となる自然科学(化学、生物、物理)と、薬理学や薬剤学などの創薬に関連する専門的な薬学の知識と研究技術を身につけた、創薬研究者の養成を目的とした教育を行っている(資料F)。

本学に特徴的な科目として、「富山のくすり学」「製薬企業と創薬」「薬学経済」が挙げられる。「富山のくすり学」では、“薬の富山”ならではの地域性を生かした講義を受講でき、また、創薬科学科に特化した授業科目「製薬企業と創薬」「薬学経済」も、それぞれ3年次と4年次に開講されている。

資料 F 創薬科学の求める学生像と、提供する教育

- 1 薬学関連の研究分野で国際的に活躍したい人
- 2 新薬の研究に携わることで人類と社会に貢献したい人
- 3 疾患に関連する現象や物質に対して興味と探究心を有している人
- 4 生体メカニズムの解明やそのための新しい方法論の開拓に挑戦したい人

(出典：薬学部アドミッションポリシーより抜粋)

創造力を醸成するために

- ・ 自らが積極的に薬科学関連分野の課題を見出し解決することができる「課題探求力」を養う教育機会を提供します。
- ・ サイエンスに関する情報を自ら収集・把握できる「調査力」を身につける教育機会を提供します。
- ・ 病気や薬に対する「思考力」，ならびに薬の開発に対する「チャレンジ精神」を実践的教育により涵養します。
- ・ 論理的で正確な報告書や卒業論文をまとめることができる「文章創造力」を少人数教育により養います。

責任感を高めるために

- ・ 実習やグループワーク等の実践的教育を通して、自分の果たすべき役割を認識した上で行動することができる能力を涵養します。
- ・ 病に苦しむ人々，製薬企業のスタッフ等の多くの人々の立場を理解し，社会に対して責任ある行動をすることができるよう，現場での教育機会を提供します。

コミュニケーション能力を向上させるために

- ・ 討論型の教育機会を通して，相手と自分の立場と諸事情を理解し，適切なコミュニケーションをとる能力を涵養します。
- ・ 外部講師による教育機会を通して，異なる考えやバックグラウンドを有する人々を深く理解し，誠実なコミュニケーションをとる能力を涵養します。

幅広い知識を養うために

- ・ 人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる知識，医療人としての教養，専門家としての知識と探究心を身につける教育機会を提供します。
- ・ くすりの富山，日本の歴史と文化，外国の文化・言語等に関する知識を修得できる教育機会を提供します。

専門知識を養うために

- ・ 最新の学問的基盤から伝統医薬に渡る幅広いサイエンスの基礎を修得・応用できる教育機会を提供します。
- ・ 創薬・ライフサイエンスに関する豊富な学識と技術，ならびに関連分野で活躍できる能力を養う教育機会を提供します。

(出典：薬学部教育課程編成方針より抜粋)

[想定される関係者とその期待]

想定される関係者は、薬学部を希望する受験生，在校生及びその保護者である。また，卒業者を受け入れる調剤薬局，病院，企業，あるいは薬事行政の分野も想定される関係者と考えられる。

そして，それら関係者の期待に応えるよう，コミュニケーション能力などの人間性豊かな教育とともに，常に自己啓発に努め，問題点の発見・解決能力の向上に重点を置いた指導を行うことで，期待される薬剤師や創薬研究者の育成に注力している。

Ⅱ 「教育の水準」の分析・判定

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

観点Ⅰ 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 組織編成上の工夫

教養教育科目を担当する教員は、人間文化科学、自然情報科学、生命健康科学の三つの分野において、医学部と共通して組織し、知的人間性の育成と専門基礎教育を取組める編成としている。定員削減により教員数は減少しているが、授業担当の調整などにより、教育水準を維持している。(資料1-1-1)

資料1-1-1 薬学部の教養教育を担当する教員の構成(平成27年5月1日現在)

	教授	准教授	講師	助教	助手	計
人間文化科学	3	4				7
生命健康科学	3	1		1		5
自然情報科学	4	2		2		8
計	10	7		3		20

上記の教員は薬学部と医学部の教養教育を担当する。(出典：医薬系学務課統計資料)

専門教育科目を担当する教員は、薬学科と創薬科学科の2つの学科の教育に、教員全員が協力して行う編成としている。教員数については、十分な教育実施体制を維持しており、また、薬学科の教育のために、実務経験を有する教員が少なくとも4人以上の編成が必要とされているが、これも充足している。(資料1-1-2)

資料1-1-2 薬学部の専門教育を担当する教員の構成(平成27年5月1日現在)

	教授	准教授	講師	助教	助手	計
薬学部	14	17	1	16		48
(薬剤部)	1	1		1		3
計	15	18	1	17	0	51

(出典：医薬系学務課統計資料)

(2) 教育の質の改善・向上

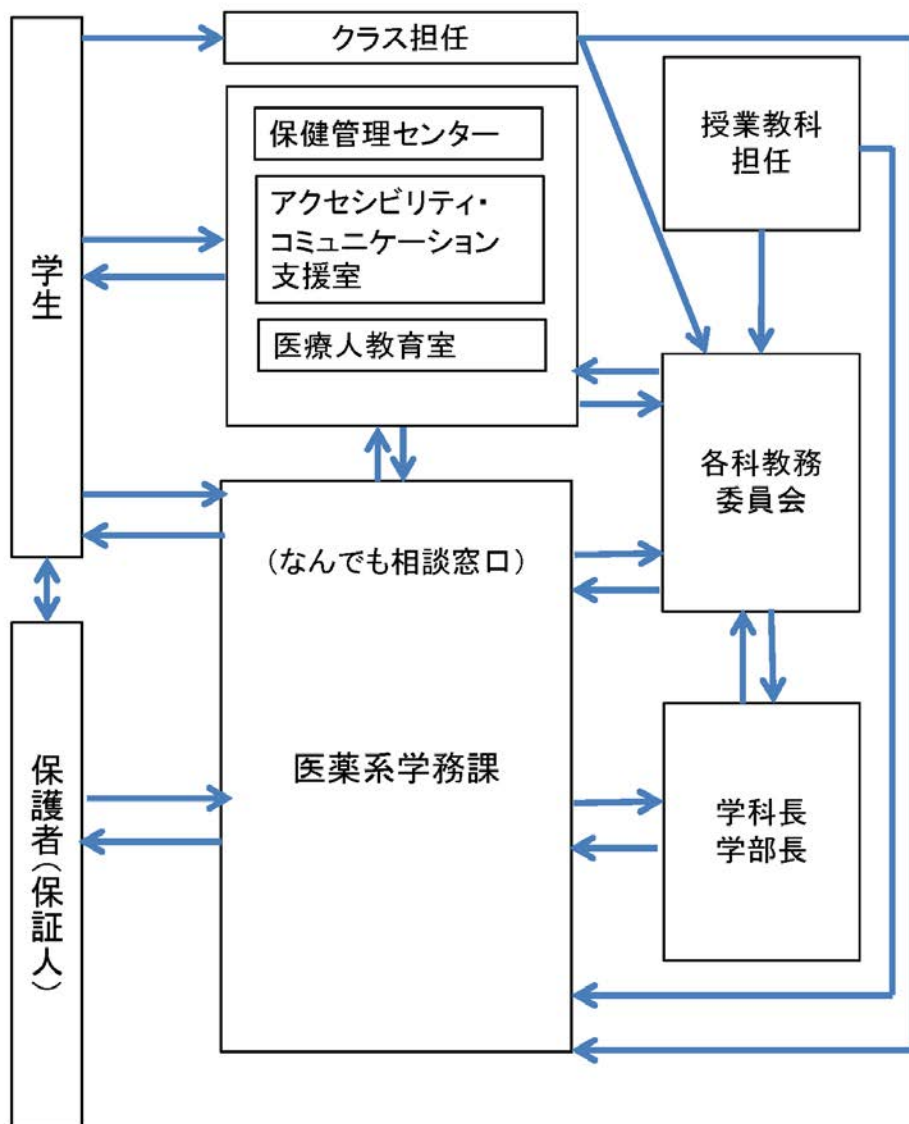
薬学の専門教育を担当する専任教員は、医学部及び和漢医薬学総合研究所教員と教育体制で連携している。この連携体制により、それぞれの学部の専任教員が共同で行う授業(医療学入門、和漢医薬学入門など)や、他学部教員が単独で担当する授業(生理学、免疫学、病原微生物学、東洋医学概論、人体機能形態学など)を展開しており、多様な観点からの教育を行い質の改善・向上に努めている。また、寄附講座(製剤設計学講座)客員教授1名、客員助教1名や保険薬局学の特命助教2名を配置し、専門教育の充実を図っている。

学生支援という観点では、教務委員会や支援関係窓口、クラス担任などの連携体制を構築し、学業面や精神面のサポートを行っている。(資料1-1-3)

また、FD研修会を教養教育担当教員及び和漢医薬学総合研究所教員と合同で実施しており、継続して教員の教育の質の向上を図っている。(資料1-1-4、1-1-5)

資料 1-1-3

杉谷キャンパス 学生・保護者(保証人)・学部相談窓口・
専門相談窓口 連携図



(出典：医薬系学務課資料)

資料1-1-4 H22～H27 年度 FD 開催状況（参加者含む）

年度	開催日	参加者	テーマ
22	22.7.31	38名	・1年次選択科目「自己磨き論」（仮称）の新設について ・薬学科6年次生の卒業研究の取り組み方について
23	23.8.6	45名	・創薬科学科の新授業科目の導入について ・新入生合宿研修における薬学系教員と薬学部生のコミュニケーションの強化について
24	24.8.6	49名	・担当授業科目の自己点検評価について ・薬学科生のアドバンスト教育並びに卒業研究のあり方について
25	25.8.9	51名	・入学直後（1・2年次生）のモチベーション維持の方法について ・薬学科5・6年次生のあり方について
26	26.8.9	44名	・薬学科及び創薬科学科のカリキュラムについて ・成績評価方式（GPA制度など）と成績開示の方法について
27	27.8.8	45名	・今後の個別入学試験について ・進級が困難な学生の対応について

（出典：薬学部FD報告書より抜粋）

資料1-1-5 平成27年度薬学部FD実施要項

1. 日 時 平成27年8月8日（土）10：00から
2. 会 場 薬学部研究棟Ⅱセミナー室8 他
3. 参加者 薬学部及び和漢医薬学総合研究所の教員（別紙名簿）
4. テーマ

学 部	・今後の個別入学試験について ・進級が困難な学生の対応について
大学院	・大学院のさらなる研究活性化の方策について ・語学力アップの方策について
5. 次 第

10:00	開講式 薬学部長挨拶 (司会進行：学部教務委員長)	[セミナー室8]
10:10	グループ討論 (1班) 今後の個別入学試験について (2班) 進級が困難な学生の対応について (3班) 大学院のさらなる研究活性化の方策について (4班) 語学力アップの方策について	[セミナー室4・5・6・7]
12:00	昼 食	
13:00	グループ討論まとめ	[セミナー室4・5・6・7]
14:00	各班グループ発表・全体討論	[セミナー室8]
15:30	総括 薬学部副学部長	[セミナー室8]
15:40	解散	

（出典：薬学部FD実施要項）

一方で、年2回の授業評価アンケートを実施しており、その結果を授業担当教員にフィードバックすることで、授業の質の向上を図っている。(別添資料1-1-6)

さらに本学部は、一般社団法人 薬学教育評価機構の正会員となっており、第三者評価に関わる活動を続けている。これは、薬学教育機関としての教育の質を保証するために、6年制薬学教育プログラムの公正かつ適正な評価等を受け、教育研究活動の充実・向上を図るものである。

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

専門教育を担当する教員体制は、6年制課程と4年制課程を併設する大学設置基準を満たしており、また6年制教育のための実務教員数も充足している。事前学習及び実務実習を担当・コーディネートする教員体制が整っており、薬学科生に対する6年制教育体制は整備されている。教養教育体制についても、知的人間性の育成と専門基礎教育を実施する人員体制が継続して整っている状態にある。

教育の質向上のためのFD研修会は毎年開催されており、創薬科学科のモチベーション向上のための方策、早期教育のあり方など、教育上の問題点の抽出と改善法の討論を継続的に実施し、実際の教育に反映させている。医学系・薬学系の専門教育教員の連携により、医療人育成のための合同教育体制が構築されており、教育の質向上のための役割を果たしている。授業評価アンケートの集計は、概ね好評な結果が得られており、改善すべきコメントについては、授業担当教員へのフィードバックが必ず行われている。

以上から、教育実施体制に関しては、継続して期待される水準にあると判断した。

観点2 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 学位授与方針に基づく教育課程の編成状況

1年次では、教養教育科目により、知的人間性の育成から専門基礎知識までの各課題に対応した幅広い知識を修得する。専門教育科目では、薬学教育の導入となる「薬学概論」、医療人としての豊かな人間性や姿勢を育む「医療学入門」などを開講している。

2年次では、教養教育科目から薬学専門教育の講義・実習科目へと徐々にシフトし、薬科学関連分野の基礎的スキルや、創薬・ライフサイエンスに関する学識と実験技術を修得する。

3年次では、主に医療系(薬理学、薬剤学関係)の専門的知識を修得し、また、「総合薬学演習」により、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を修得する。4年次以降の卒業研究を進める上で必須となる、英語科学論文を読む能力を磨くため、専門英語I及びIIを配置している。創薬科学科に特化した科目として「製薬企業と創薬」、創薬科学科のみの必修科目として「富山のくすり学」、「創薬化学」、「先端分子薬学」を開設し、創薬研究のモチベーション向上につなげている。医療系実習(生物物理化学・製剤学)では、富山県薬事研究所において先端の製剤関連の実習を行っており、創薬科学における「製剤」の重要性を学ぶ機会としている。

4年次の薬学科では、「薬物治療学」等の医療系の専門科目を配置し、卒業研究も平行して行う。また5年次の実務実習に備えて「事前学習」を開設し、薬剤師として必要とされる総合的な能力・知識を養う。12月以降に、共用試験(CBTとOSCE)を実施する。創薬科学科では、卒業研究を通して、学位授与方針(資料1-2-1)に掲げられる「想像力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識」を総合的に修得する。なお、創薬科学科の卒業研究の集大成として、「卒業論文発表会」をポスター形式により行っている。

5年次(薬学科)では、これまでに修得した専門的知識と、実習等によって培った技能・

態度を生かし、病院及び薬局実務実習を行う。これにより実践的かつ総合的に薬剤師としての能力を養う。

6年次（薬学科）では、卒業研究を通して、創薬科学科と同様に「想像力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識」を総合的に修得する。（資料1－2－1，別添資料1－2－2）

資料1－2－1 薬学部学位授与方針

薬学科

「創造力」：医療人として薬学関連分野の基礎的スキルを習得し、病気と薬に対する深い洞察力や諸事象を的確にとらえる柔軟な姿勢を身につけ、報告書や論文などの形あるものを生み出すことができる。また、その成果を的確にプレゼンテーションすることができる。

「責任感」：医療人の一員であることを自覚し、規律、倫理等を守り、自分の果たすべき役割を認識して的確に行動することができる。

「コミュニケーション能力」：多様な社会の中で、相手に働きかけて意志の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができる。

「幅広い知識」：様々な観点から病気と薬に対する理解を豊かにし、優れた知性、智力、情操を有する人間性を育むことができる。

「専門知識等」：（医薬品に関する知識）医薬品の安全性と薬効に関する豊富な学識を有し、かつ医薬品に関する情報を自ら収集・把握し、適正な薬物治療に積極的に寄与できる。（研究に関する知識）創薬・臨床研究に対する豊富な知識を有し、研究に対する積極的な姿勢を身に付けることができる。

創薬科学科

「創造力」：医療人として薬科学関連分野の基礎的スキルを習得し、病気に対する深い洞察力ならびに創薬に対する旺盛な好奇心を有し、報告書や論文などの形あるものを生み出すことができる。また、その成果を的確にプレゼンテーションすることができる。

「責任感」：医療人の一員であることを自覚し、規律、倫理等を守り、自分の果たすべき役割を認識して的確に行動することができる。

「コミュニケーション能力」：多様な社会の中で、相手に働きかけて意志の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができる。

「幅広い知識」：様々な観点から病気と薬に対する理解を豊かにし、優れた知性、智力、情操を有する人間性を育むことができる。

「専門知識等」：（サイエンスに関する知識）最新の学問的基盤から伝統医薬に渡る幅広いサイエンスの基礎を修得し、薬学研究に適切に取組むことができる。（創薬に関する知識）創薬・ライフサイエンスに関する豊富な学識と実験技術を有し、関連分野で活躍できる能力を備えることができる。

（出典：2015 医学部・薬学部履修の手引きより抜粋）

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、平成25年度に改訂され、本学でも平成27年度入学生から適用している。

新カリキュラムでは、物理系・化学系・生物系の基礎専門教育をややスリム化し、医療系や実務系の科目の充実を図った内容となっている。（資料1－2－3）

資料1-2-3 2015年度薬学部カリキュラム改正の概要

現行						新カリキュラム						
授業名	対象学科	対象学年	時期	単位数	コマ数	授業名	対象学科	対象学年	時期	単位数	コマ数	備考
薬事衛生法規	薬学科(必修)	4	後	2	15	薬事衛生法規	薬学科(必修)	4	前	2	15	事前学習における法令関連の教育のため、事前学習前に講義を完了させる。富山県くすり政策担当者に相談済み(前期後半に実施)。
コミュニケーションとチーム医療	薬学科(必修)	4	前	1	8	保険薬局学	薬学科(必修)	4	前	2	15	<事前学習に連動した内容変更> 調剤にかかわる一般的な教育、保険薬局・地域医療に関する講義。
						病院薬学(新設)	薬学科(必修)	4	前	2	15	<新設> 事前学習における教育の実態に合わせて、病院薬学関連の講義を行う。
事前学習(前)	薬学科(必修)	4	後	1	17日間	臨床前実習Ⅰ	薬学科(必修)	4	後	2	3~4週間	現行の事前学習(1科目、1単位)を、事前学習(A)、(B)の2科目としてそれぞれ独立に単位認定する。また、実施時間数から、それぞれ2単位に変更する。
事前学習(後)	薬学科(必修)				17日間	臨床前実習Ⅱ	薬学科(必修)	4	後	2	3週間	
*薬学科4年後期 金曜日 薬物治療Ⅲの講義が午後実施されるが、午前中は講義がないため午前中に事前学習を実施する。												
有機化学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	4	30	有機化学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	2	15	現行の有機化学Ⅰ、Ⅱから、新コアカリに含まれない項目を取り出して、有機化学Ⅲ(薬学科選択)とする。また、(旧)有機化学Ⅰ(4単位)を(新)有機化学Ⅰ、Ⅱに再編して、それぞれ2単位とする。
					有機化学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	2	15		
有機化学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	有機化学Ⅲ	薬学科(選択) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	
放射線学	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	3	前	2	15	衛生薬学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	3	前	2	15	<整理・統合> 現行の衛生科学Ⅰ、衛生科学Ⅱ、放射線学、薬物代謝学の4科目を、衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、衛生薬学Ⅲの3科目に整理統合する。2年後期の時間割が削減となる。
薬物代謝学	薬学科(必修)	4	前	2	15	衛生薬学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	3	後	2	15	
衛生科学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	衛生薬学Ⅲ	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	4	前	2	15	
衛生科学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	3	後	2	15							
基礎生化学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	2	15	生化学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	2	15	名称変更
基礎生化学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	生化学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	名称変更
生命情報科学Ⅰ	薬学科(選択) 創薬科学科(選択)	2	後	2	15	生命情報科学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	必修化する。
基礎微生物免疫学	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	微生物学	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	微生物と免疫学を15コマで行うのは無理が生じているので、2年次に微生物学として独立させる。
免疫学	薬学科(選択) 創薬科学科(選択)	3	後	2	15	免疫学	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	3	後	2	15	2年次に行っていた基礎微生物免疫学の免疫領域と3年次に医学部教員が行っている免疫学を統合し、薬学部教員主体の(新)免疫学とする。コアカリカバーのため、薬学科は必修とする。
						基礎薬科学(新設)	薬学科(必修)	6	前	1	10	<新設> 物理系・化学系・生物系で、必修でカバーできていない項目を補完する。
薬理学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	3	前	2	15	基礎薬理学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	3	前	2	15	名称変更。
薬理学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	3	後	2	15	基礎薬理学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	3	後	1	7	基礎薬理の必要な部分にしぼる。
薬物治療学Ⅰ	薬学科(必修)	4	前	2	15	病態薬物治療学Ⅰ	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	3	後	1	8	現行の薬物治療学Ⅰ、Ⅱから名称を変更し、Ⅰ～Ⅲとして8コマ分幅を広げる。
薬物治療学Ⅱ	薬学科(必修)	4	前	2	15	病態薬物治療学Ⅱ	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	4	前	2	15	
薬物治療学Ⅲ	薬学科(必修)	4	後	2	15	病態薬物治療学Ⅲ	薬学科(必修)	4	前	2	15	
ケミカルバイオロジーⅠ、Ⅱ	薬学科(自由) 創薬科学科(選択)	3	前	2	15	ケミカルバイオロジーⅠ、Ⅱ	薬学科(選択) 創薬科学科(選択)	3	前	2	15	薬学科 自由から選択
富山のくすり学、先端分子薬学	薬学科(自由) 創薬科学科(必修)	3	後	2	15	富山のくすり学、先端分子薬学	薬学科(選択) 創薬科学科(必修)	3	後	2	15	薬学科 自由から選択
生物物理化学	薬学科(必修) 創薬科学科(自由)	2	後	2	15	生物物理化学	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	2	後	2	15	創薬科学科 自由から選択
製薬企業と創薬	創薬科学科(自由)	3	後	1	15	製薬企業と創薬	創薬科学科(必修)	3	後	1	15	自由単位から必修単位
生薬学	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	2	後	2	15	生薬学	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	後	2	15	創薬科学科 選択から必修
東西医薬学	薬学科(必修) 創薬科学科(選択)	4	前	2	15	東西医薬学	薬学科(選択) 創薬科学科(選択)	4	前	2	15	薬学科 必修から選択
行動科学(教養教育科目)	薬学科(選択) 創薬科学科(選択)	1	後	2	15	行動科学(教養教育科目)	薬学科(必修) 創薬科学科(必修)	2	前	2	15	選択科目から必修科目

(別表第3) 薬学科
単位数の変更
(1) 教養教育科目
生命健康科学
「必修6単位を含む」から「必修8単位を含む」
(2) 専門教育科目
1. 必修科目
基礎系 8単位から6単位
化学系 10単位から8単位
生物系 18単位から20単位
医療系 20単位から24単位
薬学 14単位から18単位
実務実習 21単位から20単位
2. 選択科目 29単位から27単位
3. 専門計 139単位から142単位
(3) 総計 187単位から190単位

(別表第5) 創薬科学科
単位数の変更
(1) 教養教育科目
生命健康科学
「必修6単位を含む」から「必修8単位を含む」
(2) 専門教育科目
1. 必修科目
基礎系 7単位から8単位
化学系 10単位から12単位
生物系 12単位から14単位
医療系 10単位から9単位
2. 選択科目 19単位から16単位
3. 専門計 91単位から92単位
(3) 総計 139単位から140単位

(出典：医薬系学務課資料)

(2) 教育方法や学習支援の工夫による教育課程の実効性の向上

教養教育では、選択科目の充実を図るほか、自然科学系必修科目においては習熟度別クラス編成を行い、必要なクラスには通常の2倍の時間数をかけるなど、基礎知識の習得が十分におこなわれるよう工夫している。人間文化科学系科目においては、自主性・個別性に応じた教育を行う観点から、チュートリアル方式の授業と少人数セミナー方式の授業を取入れている。また、外国語科目においては、TOEFL、TOEIC等による単位認定や、CALLシステムを活用した授業も実施している（資料1-2-4）。さらに、「海外研修・留学英語準備セミナー」の導入について検討を行ったり（平成28年度から実施）、定期的にTOEIC講習会やTOEIC-IPテストを実施し、TOEIC対策ソフトを学内LANで利用できるようにするなど、グローバル教育の強化を図っている。

専門教育では、1年次に「薬学概論」を開設し、創薬科学科は県内製薬企業を訪問し、工場見学やスタッフの専門講義を受ける。薬学科は、病院・薬局を訪問し、薬剤師の活躍する現場の見学や薬剤師から体験談などの講義を受ける。2つの学科の将来の違いの一端を、早期の段階で教育するための有効な機会である（資料1-2-5）。また、研究室訪問により薬学部での専門性の高い研究内容に触れ、薬学生として学問を学んで行くモチベーションへと繋げている（資料1-2-6）。

「医療学入門」では、心肺蘇生講習や早期介護体験実習（薬学科）により医療人としての意識付けを行い、新入生合宿研修を通してコミュニケーション能力の向上を図っている（資料1-2-7）。

2年次に開設されている「和漢医薬学入門」では、医学、薬学、和漢医薬学の幅広い専門の教員による講義・体験実習を行い、東西医薬学の融合と和漢薬の基本的考え方を修得できる。

3年次では、「専門英語I・II」を開設し、少人数形式の授業として実施することで、学習効率の向上を図っている。また、「総合薬学演習」で、グループ毎の調査研究の結果を全員の前で発表するという授業を行い、グループ学習での協調性を身につける機会としている（資料1-2-8）。さらに創薬科学科では、「製薬企業と創薬」で製薬企業にて活躍している研究者による講義を受けた上で、創薬研究等に関する調査研究を行い、創薬研究に対するモチベーションアップを図っている。（資料1-2-9）。

4年次前学期には、主として創薬科学科生を対象とした「薬学経済」を開講し、薬学部卒業後の職種とその仕事内容について、各分野で活躍している富山大学薬学部の卒業生による講演を実施している。講師が自分たちの先輩にあたる身近な方ということで、意欲的な学習態度に結びついている（資料1-2-10）。

グローバル教育の充実として、「海外薬学演習」で南カリフォルニア大学臨床薬学研修を行っており、毎年3～4名の学生が参加している。

卒業研究については、両学科とも4年次2月に成果発表会（薬学科は中間報告会）をポスター形式にて実施しており、発表賞を設けて表彰と掲示を行い、意欲を高めている（資料1-2-11）。さらに薬学科生は6年次11月に、オーラル形式での卒業研究発表会を行っており、プレゼンテーション能力向上につなげている。

授業科目の履修にあたっては、シラバスの記載内容から予習や自習を促すとともに、オフィスアワーや連絡先を記載することで、個別の質問や直接指導の相談などを行いやすい仕組みにしている。医薬学図書館の自習室や情報処理実習室は、24時間利用が可能であり、学生の自己学習をサポートしている。また自己学習に必要な専門書籍を備えたチュートリアル室を薬学研究棟の各フロアに備えており、学生は自習やグループ学習で活用している。

資料 1-2-4

習熟度クラス編成の授業科目：解析学 A・B 基礎化学 A・B 物理学 I A・I B

TOEFL, TOEIC 等の単位認定：

別表

認定する資格	単位数	授 業 科 目
実用英語技能検定 1 級 TOEIC 850 点以上 TOEFL 588 点以上 (PBT) TOEFL 96 点以上 (iBT) ※ いずれか一に限る。	6	教養教育科目： 英語 ※ 認定する単位数は、 6 単位を限度とする。
TOEIC 796 ～ 849 点 TOEFL 569 ～ 587 点 (PBT) TOEFL 88 ～ 95 点 (iBT) ※ いずれか一に限る。	4	※ 既に単位を認定された 資格を有する者が上級の 資格を取得した場合には、 上級の資格で認定する単位数 と既に認定された単位数との 差を限度として認定する。
実用英語技能検定 準 1 級 TOEIC 650 ～ 795 点 TOEFL 509 ～ 568 点 (PBT) TOEFL 64 ～ 87 点 (iBT) ※ いずれか一に限る。	2	
実用フランス語技能検定試験 3 級以上	4	教養教育科目： 基礎仏語 I・II 実用仏語 I・II
実用フランス語技能検定試験 4 級	2	教養教育科目： 基礎仏語 I 実用仏語 I
実用フランス語技能検定試験 5 級	1	教養教育科目： 基礎仏語 I 又は実用仏語 I のいずれか一
ドイツ語技能検定試験 3 級以上	4	教養教育科目： 基礎独語 I・II 実用独語 I・II
ドイツ語技能検定試験 4 級	2	教養教育科目： 基礎独語 I 実用独語 I

TOEIC は、TOEIC IP test を含む。また TOEFL(PBT)は TOEFL ITP を含む。

※ TOEFL・PBT = (Paper-based Test)

TOEFL・iBT = (Internet-based Test)

TOEFL・ITP = (Institutional Testing Program)

CALL システムを活用した授業：CALL セミナー，英語 IIIa

(出典：2015 医学部・薬学部履修の手引きより抜粋)

資料1－2－5

薬学概論 早期体験実習概要

薬学科「早期体験学習（病院・薬局見学）」について

目 的：薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、薬剤師の活躍する医療現場を体験する。

課 題：病院・薬局薬剤師の業務を見聞し、以下の点について自分の意見をまとめ、レポートとして提出する。

1. 病院・薬局の特徴（例：他業種との違い）
2. 薬剤師の仕事（例：医療専門家としての役割）
3. 薬剤師の患者様に対する態度

レポートはA4用紙1枚（タイトル、見学先、学籍番号、氏名を記入）にまとめ、実習後1週間以内に医薬系学務課・レポートBOXまで提出すること。

実施方法：5月15日(金)・22日(金)の「薬学概論」授業のいずれか1日
13時10分出発（実習は約2時間30分、貸切バスで移動）
5～6人1グループで1病院または1薬局

実施病院：別紙「研究室訪問割振表」を参照のこと
実施薬局

持 ち 物：白衣、上履き（スリッパ不可）、学生証、筆記用具

注 意：1. 医療現場である病院・薬局での学習であるため、言葉遣い、服装などに特に注意すること。
2. 訪問時および終了時には、挨拶をすること。
3. 実習中は、必ず、実習指導者の指示の下で行動すること。
4. 医療現場では、守秘義務に関することが多々ある。
また、個人情報保護法の観点から、現場で知り得たことは一切外部に漏らしてはならない。
5. バスでの移動に時間がかかると考えられるため、行動は、迅速に行うこと。

（出典：医薬系学務課資料）

資料 1－2－5（続き）

創薬科学科「早期体験学習（工場見学）」について

目 的：医薬品開発，製造に関して理解を深め，薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために，医薬品工場を見学する。

課 題：医薬品工場を見聞し，感想をレポートとして提出する。
レポートはA4用紙1枚（タイトル，学籍番号，氏名を記入）にまとめ，実習後1週間以内に医薬系学務課・レポートBOXまで提出すること。

実施方法：5月15日（金）・22日（金）の「薬学概論」授業のいずれか1日
13時10分出発（実習は約2時間30分，貸切バスで移動）
5月15日（金）29人、22日（金）26人
グループ分けについては，別紙「研究室訪問割振表」を参照のこと

訪 問 先：テイカ製薬株式会社

持 ち 物：正装，筆記用具

注 意：1. 医薬品工場の見学であるため，言葉遣い，服装などに注意すること。
2. 訪問時および終了時には，挨拶をすること。
3. 見学中は，必ず，実習指導者の指示の下で行動すること。
4. 医薬品工場では，守秘義務に関することが多々ある。
また，特許法等の観点から，現場で知り得たことは一切外部に漏らしてはならない。
5. バスでの移動に時間がかかると考えられるため，行動は，迅速に行うこと。

（出典：医薬系学務課資料）

資料 1 - 2 - 6 薬学概論研究室訪問割振表

平成27年度 薬学概論 研究室訪問割振表

学籍番号 (下3桁)	4月24日(金)		5月15日(金)		5月22日(金)		5月29日(金)	
	3限 13:00～14:30	4限 14:45～16:15	3限 13:00～14:30	4限 14:45～16:15	3限 13:00～14:30	4限 14:45～16:15	3限 13:00～14:30	4限 14:45～16:15
201 - 206	生体認識化学	薬品製造学	Aグループ 市立富波総合病院(生体認識化学) 富山日本赤十字病院(医薬品安全性学) 富山市民病院(薬物治療学) 富山県立中央病院(遺伝情報制御学) かみいいの薬局(医療薬学)		応用薬理学	薬剤学	薬物生理学	病態制御薬理学
207 - 212	薬化学	生体認識化学			薬用生物資源学	分子細胞機能学	応用薬理学	薬物生理学
213 - 218	医薬品安全性学	薬化学			生体認識化学	応用薬理学	薬用生物資源学	附属病院薬剤部
219 - 224	医療薬学	医薬品安全性学			薬化学	生体界面化学	薬剤学	化学
225 - 230	薬物治療学	医療薬学			医薬品安全性学	附属病院薬剤部	分子細胞機能学	薬剤学
231 - 236	遺伝情報制御学	薬物治療学	構造生物学	薬剤学	Bグループ 市立富波総合病院(がん細胞生物学) 富山日本赤十字病院(分子神経生物学) 富山市民病院(薬品製造学) 富山県立中央病院(薬物治療学) かみいいの薬局(医療薬学)		分子合成化学	生物学
237 - 241	がん細胞生物学	遺伝情報制御学	薬品製造学	分子細胞機能学			生体界面化学	分子合成化学
242 - 246	分子神経生物学	がん細胞生物学	分子合成化学	附属病院薬剤部			病態制御薬理学	生体界面化学
247 - 251	構造生物学	分子神経生物学	がん細胞生物学	分子合成化学			附属病院薬剤部	分子細胞機能学
252 - 256	薬品製造学	構造生物学	分子神経生物学	病態制御薬理学			ゲノム機能解析	生薬資源科学
301 - 306	生体界面化学	薬物生理学	Aグループ テイカ製薬見学 【井上】		遺伝情報制御学	生体認識化学	構造生物学	薬品製造学
307 - 312	薬用生物資源学	応用薬理学			生体界面化学	薬化学	生体認識化学	構造生物学
313 - 318	消化管生理学	薬用生物資源学			分子細胞機能学	医薬品安全性学	薬化学	生体認識化学
319 - 324	和漢薬製剤開発	分子合成化学			薬物生理学	遺伝情報制御学	医薬品安全性学	薬化学
325 - 329	栄養代謝学	生体界面化学			薬剤学	薬物生理学	医療薬学	医薬品安全性学
330 - 334	漢方診断学	病態制御薬理学	薬用生物資源学	がん細胞生物学	Bグループ テイカ製薬見学 【帯田】		薬物治療学	医療薬学
335 - 339	病態生化学	附属病院薬剤部	病態制御薬理学	分子神経生物学			遺伝情報制御学	薬物治療学
340 - 344	分子合成化学	天然物化学	附属病院薬剤部	構造生物学			がん細胞生物学	遺伝情報制御学
345 - 349	薬物生理学	複合薬物薬理学	分子細胞機能学	薬品製造学			分子神経生物学	がん細胞生物学
350 - 354 11460344	病態制御薬理学	薬剤学	神経機能学	応用薬理学			薬品製造学	分子神経生物学

(出典：医薬系学務課資料)

資料 1－2－7 新入生合宿研修要綱

平成 27 年度 新入生合宿研修要綱

1. 目的 大学生生活の初めに早春の悠大な立山の大自然の懐に入り、医学薬学の教育理念を学びとるとともに、協力、相互の規律正しい集団生活をとおして、学生教職員間の交流親睦を深め、今後の学生生活を豊かにすることを目的とする。
2. 実施日時 平成 27 年 5 月 8 日（金）～9 日（土） 1 泊 2 日
3. 宿泊場所 ◎医学部看護学科・薬学部
富山県富山市原 3－6
「ホテル森の風立山」
◎医学部医学科
富山県中新川郡立山町千寿ケ原
「グリーンビュー立山」
4. 参加対象 平成 27 年度学部新入生 約 300 名
5. 研修内容 ・全体討議（アイスブレイク等）
・学科別討論
・野外研修
・その他
※野外研修は、2 日目に実施する。
6. バス状況 平成 27 年 5 月 8 日（金）・・立山ツーリスト
平成 27 年 5 月 9 日（土）・・富山地鉄
7. 指導教員等 村口医学部長（総括）
細谷薬学部長（総括）
廣川准教授（医療人教育室長）
クラス担当教員、
医学部教員、薬学部教員、医薬系学務課職員
8. 留意事項
立山室堂周辺での野外研修の実施に際しては、最新の火山情報に留意する。

（出典：医薬系学務課資料）

資料 1-2-8 総合薬学演習 実施概要

平成 27 年度 総合薬学演習

◎指導研究室等について

班	班 長	指導研究室	研究課題
1 班 ()		医療薬学 (4 F)	()
2 班 ()		薬物治療学 (5 F)	()
3 班 ()		がん細胞生物学 (7 F)	()
4 班 ()		薬品製造学 (4 F)	()
5 班 ()		分子神経生物学 (6 F)	()
6 班 ()		分子細胞機能学 (6 F)	()
7 班 ()		分子合成化学 (4 F)	()
8 班 ()		構造生物学 (3 F)	()
9 班 ()		薬物生理学 (5 F)	()

※班については、2～4 ページで確認。

※研究課題を決める。(各研究課題 1 に対し各 1 班)

※各班で班長を決め、文献調査やまとめの役割分担、発表の準備を行う。

班全員で、**10月29日(木)**までに、アポイントを取ったうえで、指導研究室へ最初の挨拶・打合せに行くこと。

※指導研究室の指導を受けながら学習を進める。

◎到達目標

以下に例示した医薬品から選択し、探索、合成、構造活性相関、薬理作用、臨床応用、体内動態、副作用、相互作用などについて調査し、発表する。

◎研究課題

1. 心臓・血管系疾患治療薬 (トリメタジジン塩酸塩)
2. 消化器系疾患治療薬 (ミソプロストール)
3. 神経疾患治療薬 (スボレキサント)
4. 代謝疾患治療薬 (カナグリフロジン水和物)
5. 解熱・鎮痛薬 (タペンタドール塩酸塩)
6. 抗癌・免疫抑制薬 (ベンダムスチン塩酸塩)
7. 呼吸器系薬 (ウメクリジニウム臭化物/ビランテロールトリフェニル酢酸塩 (商品名アノーロエリプタ7 吸入用))
8. 血液・抗凝固薬 (エドキサバン トシル酸塩水和物)
9. 感染症薬 (ファビピラビル)

◎発表会は、**平成 27 年 12 月 9 日 (水) 13:30 から**大講義室にて行う。

※各班 20 分程度で発表を行う。

(出典：医薬系学務課資料)

資料 1－2－9 製薬企業と創薬 実施概要

平成 27 年度後学期

専門教育科目「製薬企業と創薬」の概要

【対象】創薬科学科 3 年次生 **【授業種別】**演習・専門自由科目 1 単位
専門自由科目ではあるが、創薬科学科に特化した授業科目であることを認識し、創薬科学科 3 年次生全員が受講すること。

【目的】

製薬企業の創薬研究等に関する調査・自由研究を行い、将来、国内外の薬学関連分野で研究者として活躍できる科学的センスを養うことを目的とする。

【内容】

- ・製薬企業で活躍する研究者の講義を 5 コマ行う。講義予定は、別途掲示済。
- ・研究室配属決定(12/4)後、原則として月曜 4 限に、各研究室で製薬企業の創薬研究等に関する調査・自由研究を指導する。

※各研究室の裁量により、曜限の変更も可

※指導予定：12 月 14 日(月)、21 日(月)、1 月 12 日(火) (月曜授業の振替)、18 日(月)、25 日(月)の計 5 回

- ・講義の中から 1 つを選んで、調査・研究を行う。所属研究室の指導教員から、定期的（例えば、毎週月曜 4 限）に助言・指導を受けつつ調査・研究を進める。(総合薬学演習に準じた手法)
- ・調査・研究結果を取りまとめたレポートを提出する。

【レポート提出時の留意事項】

- ・レポートは、A 4 用紙 3 枚程度とし、平成 28 年 2 月 4 日 18:00 までに医薬系学務課へ提出する。
- ・提出するレポートは、原則として電子ファイル(ワード形式)にてヘルンシステムのレポート提出機能により提出する。
- ・レポートの 1 枚目の表題等は、以下のとおり記載する。(表紙は作らない。)
 - (1 行目左端) レポート題名 (フォント等:MS 明朝 14 ポイント)
 - (2 行目右端) 講座等研究室名 学籍番号 氏名
(フォント等:MS 明朝 12 ポイント)
 - (3 行目以降) 本文 (フォント等:MS 明朝 10 ポイント)

注) フォント等は目安。各ページにページ番号は入れないこと。医薬系学務課にてレポートを取りまとめ簡易製本し、学生および教員に配布する。

(出典：医薬系学務課資料)

資料1-2-10 薬学経済講義スケジュール

回 (日時) /Time (date and time)	主題と位置付け (担当) /Subjects and instructor's	学習方法と内容 /Methods and contents
第1回 4月10日	薬学経済総論	47年間の会社勤務経験から、いま学生の皆さんに是非伝えておきたいこと ー 医薬品業界の最近の話題 ー 飯田 晋一郎 (第48回生) 元 三菱ウェルファーマ(株) 社長 本「特講」コーディネーター
第2回 4月17日	薬事行政	国(厚労省、PMDA)及び地方自治体の薬事行政について 江野 英夫 (第81回生) 厚生労働省 医政局 医療経営支援課 課長補佐 藤岡 俊太郎 (第92回生) 富山県厚生部くすり政策課
第3回 4月24日	臨床開発	製薬企業での臨床開発の仕事 高瀬 明子 (第85回生) MSD(株) グローバル研究開発本部 クリニカルサイエンス領域 感染症領域
第4回 5月8日	研究開発	国立研究開発法人で研究生生活をおくるといふ選択肢 ー 厚生労働省所管の医薬基盤・健康・栄養研究所を例として ー 山田 弘 (第72回生) 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト プロジェクトリーダー
第5回 5月15日	研究開発	創薬における分子イメージング 伏木 洋司 (第89回生) アステラス製薬(株) 研究本部 トランスレーショナルサイエンス研究所
第6回 5月22日	製薬業界関連産業	医薬産業と商社ビジネス 平岡 良隆 (第84回生) 伊藤忠ケミカルフロンティア(株) 薬事業部 医薬第二課
第7回 5月29日	研究開発	薬の歴史と富山化学工業(株)における研究開発紹介 野村 伸彦 (第73回生) 富山化学工業(株) 総合研究所 製品企画部
第8回 6月5日	MR業務、営業戦略	製薬企業におけるMR業務と営業戦略 原 秀敏 (第59回生) 元 塩野義製薬(株) 製品戦略部
第9回 6月12日	開発企画・営業戦略	プロダクト ライフサイクル マネジメント 中西 憲幸 (第60回生) (一社) ソーシャルユニバーシティ 副校長
第10回 6月19日	知的財産権	製薬企業における知的財産戦略 内山 務 (第72回生) エーザイ(株) 知的財産部 部長
第11回 6月26日	病院薬剤師業務	病院薬剤師業務ならびに製薬企業に望むこと 高畑 英信 (第67回生) 市立砺波総合病院 薬剤科 薬剤科長
第12回 7月3日	調剤薬局薬剤師業務	薬局業界の現状と将来性 蕪城 博 (株)アルプ 調剤薬局本部 取締役部長
第13回 7月10日	薬学経済総論	医療保険制度とジェネリック医薬品 吉野 泰山 (第69回生) 日医工(株) 営業学術部 参与

第14回 7月17日	臨床試験・受託試験機関	臨床試験および臨床研究の現状と将来 ー 製薬会社、SMO、CRO での経験を通して ー 小林 正史 (第60回生) 株式会社リニカル 経営企画室 担当部長 元 藤沢薬品工業(株) 医学調査部
第15回 7月24日	製薬企業 (国内および海外の医療政策担当)	海外留学から医療経済の知識を生かした製薬企業での業務 紹介と、社会人博士 (3月修了) & 育児・時短勤務の生活 東 美恵 (第83回) エーザイ(株) ガバメント・リレーションズ部 課長

(出典：2015 シラバス抜粋)

資料1-2-11 卒業研究発表会実施要項 (薬学科)

平成27年度「薬学科卒業研究発表会」について

このことについて、下記のとおり行う。

記

期 日

平成27年11月6日(金) 9:00～

場 所

看護学科研究棟 10, 11 講義室

発表時間

1人12分 (口述9分, 質問3分)

備 考

- ・卒業研究発表会における演題名は、原則として、卒業論文題目と一致させる
- ・薬学科6年次生は、終日、参加すること
適宜、出席確認を行う
- ・発表に対する教員並びに学生からの質問を受付ける

以上

平成27年7月15日
薬学部教授会承認

卒業研究発表会実施要項（創薬科学科）

平成 27 年度 卒業研究発表会・ポスター発表会

平成 28 年 2 月 19 日(金) 講義・実習棟 1 階

(掲示) 創薬科学科: 101-103 講義室 薬学科: 1F ラウンジ

スケジュール

11:30-12:50 4 年次生ポスター掲示 (9:00~設営作業 薬学科3年次生)

13:00 開会式 (大講義室)

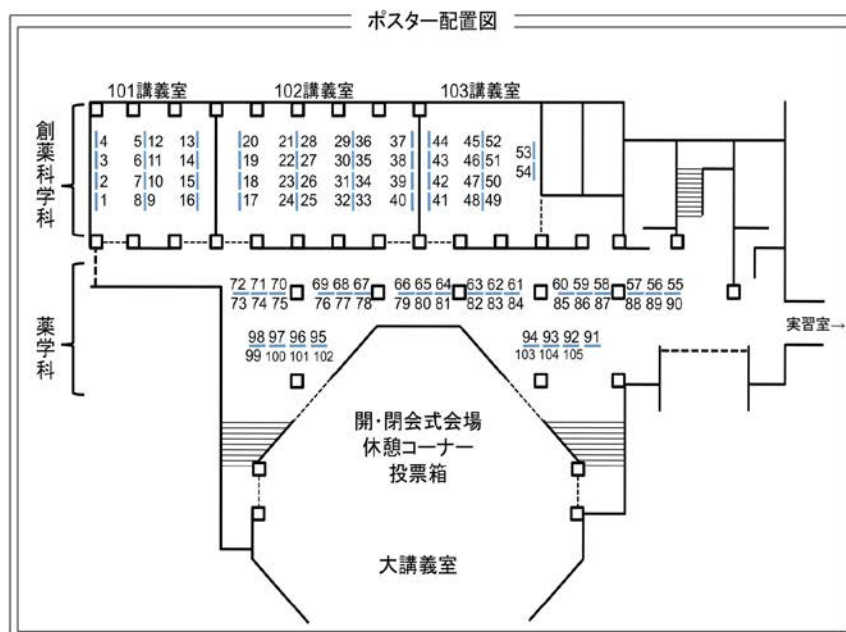
13:15-14:30 発表 (奇数)

14:30-15:45 発表 (偶数)

(15:30-16:00 投票箱設置 大講義室)

15:50 閉会式 (大講義室)

16:00~ 4 年次生ポスター撤去 (会場撤去作業 創薬科学科3年次生)



(出典: 医薬系学務課資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

教育内容については、学位授与方針に基づきカリキュラム編成がなされ、各学年において求められる学習内容を適切に配置している。

教養科目では、人間文化科学、生命健康科学、自然情報科学の3つの区分で適切なバランスにて科目が配され、知的人間性の育成及び専門基礎知識の修得が、効果的に達成されるカリキュラムが組まれている。

専門科目では、1年次の早期教育で、薬学体験を盛り込んだ「薬学概論」や、医療人としての意識付けを狙った「医療学入門」が配置され、その他、「総合薬学演習」や創薬科学科に特化した「製薬企業と創薬」、「薬学経済」など、ユニークな特色のある授業を展開している。学年進行に伴う専門科目の配置も、「物理・化学・生物」から「薬理・薬剤・医療」へと合理的に展開されており、学位授与方針にある「想像力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識」を総合的に修得するカリキュラムとして、適切であると判断できる。

教育方法については、教養教育で習熟度別クラス編成を採用したり、学習効率を上げるため少人数制教育やチュートリアル式授業、演習形式科目などがふんだんに取入れられており、工夫がみられる。シラバスにオフィスアワーや連絡先を記載することで個別の質問に対応し、医薬学図書館の自習室や情報処理実習室の利用システムなど、学生の自己学習を促すための取組がなされている。

以上から、教育内容・方法に関しては、期待される水準にあると判断した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点1 学業の成果

(観点到係る状況)

薬学科においては、「創造力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識等」を学位授与方針に掲げ(資料1-2-1)、医療人としての知識、スキル、感性の涵養を教育目標とし、実践している。その成果は、薬剤師国家試験の合格率へと反映され、資料2-1-1のように推移している。第100回の大学別新卒合格状況では、国公立大学中で3位以内に入る94%の合格率であった(資料2-1-2)。

資料2-1-1 薬剤師国家試験合格率の推移(第97回以降)

		受験者	合格者	合格率
平成23年度	第97回	53	50	94.3%
平成24年度	第98回	54	45	83.3%
平成25年度	第99回	56	43	76.8%
平成26年度	第100回	50	47	94.0%
平成27年度	第101回	57	51	89.5%

(出典：医薬系学務課統計資料)

資料 2-1-2 第 100 回薬剤師国家試験大学別合格状況

平成27年3月27日発表
厚生労働省医薬食品局

学校番号	大学名	総数				6年制卒業生								その他(旧4年制卒業生・受験資格認定者)			
						新 卒				既 卒							
		出願者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	出願者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	出願者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	出願者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
10	北海道大学	42	39	27	69.23	30	30	23	76.67	4	4	1	25.00	8	5	3	60.00
11	東北大学	38	37	22	59.46	19	19	16	84.21	5	5	3	60.00	14	13	3	23.08
12	千葉大学	49	47	32	68.09	36	36	29	80.56	6	6	3	50.00	7	5	0	0.00
13	東京大学	25	21	13	61.90	10	10	10	100.00	1	1	0	0.00	14	10	3	30.00
15	富山大学	77	74	58	78.38	50	50	47	94.00	18	15	11	73.33	9	9	0	0.00
16	金沢大学	47	45	39	86.67	35	35	33	94.29	1	1	0	0.00	11	9	6	66.67
17	京都大学	50	45	35	77.78	32	31	27	87.10	7	7	3	42.86	11	7	5	71.43
18	大阪大学	42	42	31	73.81	26	26	22	84.62	6	6	4	66.67	10	10	5	50.00
19	岡山大学	52	52	40	76.92	39	39	31	79.49	10	10	7	70.00	3	3	2	66.67
20	広島大学	55	53	46	86.79	41	41	36	87.80	9	9	8	88.89	5	3	2	66.67
21	徳島大学	63	61	50	81.97	42	42	38	90.48	6	6	5	83.33	15	13	7	53.85
22	九州大学	49	49	32	65.31	29	29	21	72.41	6	6	3	50.00	14	14	8	57.14
23	長崎大学	57	52	39	75.00	36	36	28	77.78	8	8	7	87.50	13	8	4	50.00
24	熊本大学	79	77	57	74.03	50	49	37	75.51	18	17	15	88.24	11	11	5	45.45
国立 計		725	694	521	75.07	475	473	398	84.14	105	101	70	69.31	145	120	53	44.17
31	岐阜薬科大学	111	106	83	78.30	85	82	69	84.15	19	18	11	61.11	7	6	3	50.00
32	静岡薬科大学	120	118	88	74.58	84	83	69	83.13	20	20	15	75.00	16	15	4	26.67
33	名古屋市立大学	91	85	62	72.94	63	63	51	80.95	15	13	5	38.46	13	9	6	66.67
公立 計		322	309	233	75.40	232	228	189	82.89	54	51	31	60.78	36	30	13	43.33

(出典：医薬系学務課統計資料)

創薬科学科においても、「創造力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識等」を学位授与方針に掲げ(資料1-2-1), 医療人の一員であるとともに, 創薬についてのサイエンティフィックな創造力, 創薬に関する専門知識を兼ね備えた研究者マインドの醸成を目標としている。創薬科学科の卒業生は, 90%以上(平成23, 24年度を除く)が大学院博士前期課程へと進学し, 内部進学率が高いことから(資料2-1-3), 卒業までに得てきた学習成果が卒業研究の成果に生かされ, 引き続き大学院での研究に結びついている。

資料 2-1-3 創薬科学科生の大学院進学状況及び内部進学率

年度	卒業者	進学	進学率	内部進学	内部進学率
H21	39	38	97.4%	36	94.7%
H22	38	35	92.1%	33	94.3%
H23	39	32	82.1%	31	96.9%
H24	51	44	86.3%	44	100.0%
H25	54	49	90.7%	46	93.9%
H26	44	40	90.9%	36	90.0%
H27	54	47	87.0%	45	95.7%

(出典：医薬系学務課統計資料)

薬学科、創薬科学科ともに、持続的な勉学を促す目的から、学年ごとに進級基準を設け、各学年において修得した科目及び単位数が基準に満たない場合は、進級することができない制度をとっている。最近の留年者数のデータを、資料2-1-4に示す。

資料2-1-4 各学年留年者状況

年度	学科	計	6年	5年	4年	3年	2年	1年
H24	薬学科	13	0	1	2	0	3	7
	創薬科学科	15	-	-	2	1	7	5
	合 計	28	0	1	4	1	10	12
H25	薬学科	17	0	0	3	1	5	8
	創薬科学科	16	-	-	1	5	3	7
	合 計	33	0	0	4	6	8	15
H26	薬学科	20	0	0	5	3	5	7
	創薬科学科	20	-	-	1	4	8	7
	合 計	40	0	0	6	7	13	14
H27	薬学科	11	0	0	3	4	4	0
	創薬科学科	17	-	-	0	4	4	9
	合 計	28	0	0	3	8	8	9

(出典：医薬系学務課統計資料)

薬学科、創薬科学科ともに、卒業研究で得られた成果は、学術誌に投稿・掲載されている(資料2-1-5)。また、学会等においても成果発表されており、発表賞等も受けている(資料2-1-6)。

資料2-1-5 卒業研究にかかる学術誌での論文発表数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
薬学科	8	11	13	21	20	11	
創薬科学科	10	14	26	31	46	28	

(出典：医薬系学務課統計資料)

資料2-1-6 卒業研究にかかる学会等での発表・受賞数

()内は受賞数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	備考
薬学科	33 (1)	70 (3)	83 (3)	94 (5)	67 (3)	29	
創薬科学科	71	134 (1)	122	175	181 (2)	52	

(出典：医薬系学務課統計資料)

本学部では、学部卒業生に対して、学習達成度の自己評価についての卒業時アンケートを実施している。「創造力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識等」の5項目全てにおいて、最低評価「あまり身に付かなかった」が0～数%となっており、学位授与方針の達成度としては概ね良好な評価が得られている(資料2-1-7)。

資料 2-1-7 薬学部卒業生に対するアンケート結果

薬学部 薬学科 平成 27 年度卒業生アンケート

- 1) 薬学関連分野の基礎を習得し、病気と薬に対する洞察力を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・10 (27.8%)
 - 3. かなりもつことができた・・・12 (33.3%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・14 (38.9%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・0 (0%)
- 2) 薬学関連分野の研究成果を卒業論文などとしてまとめ、プレゼンテーションする能力を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・12 (33.3%)
 - 3. かなりもつことができた・・・7 (19.4%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・15 (41.7%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・2 (5.6%)
- 3) 医療人の一員としての自覚のもと、自分の果たすべき役割を認識して的確に行動する能力を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・11 (30.6%)
 - 3. かなりもつことができた・・・11 (30.6%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・12 (33.3%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・2 (5.6%)
- 4) 社会の中で豊かな人間関係を築き、相手を思いやりながらコミュニケーションをとる能力を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・12 (33.3%)
 - 3. かなりもつことができた・・・12 (33.3%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・12 (33.3%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・0 (0%)
- 5) 病気と薬に対する幅広い知識を修得し、医療人としての教養と探究心を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・11 (30.6%)
 - 3. かなりもつことができた・・・15 (41.7%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・10 (27.8%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・0 (0%)
- 6) 医薬品の安全性や薬効に関する知識、臨床研究に対する知識を身につけることができましたか。
- 4. 十分にもつことができた・・・9 (25.0%)
 - 3. かなりもつことができた・・・12 (33.3%)
 - 2. ある程度もつことができた・・・15 (41.7%)
 - 1. あまりもつことができなかった・・・0 (0%)

薬学部 創薬科学科 平成 27 年度卒業生アンケート

- 1) 薬科学関連分野の基礎を習得し、創薬に対する好奇心をもつことができましたか。
4. 十分にもつことができた・・・6 (17.1%)
 3. かなりもつことができた・・・22 (62.9%)
 2. ある程度もつことができた・・・6 (17.1%)
 1. あまりもつことができなかった・・・1 (2.9%)
- 2) 薬科学関連分野の研究成果を卒業論文などとしてまとめ、プレゼンテーションする能力を身につけることができましたか。
4. 十分に身についた・・・6 (17.1%)
 3. かなり身についた・・・18 (51.4%)
 2. ある程度身についた・・・10 (28.6%)
 1. あまり身につかなかった・・・1 (2.9%)
- 3) 医療人の一員としての自覚のもと、自分の果たすべき役割を認識して的確に行動する能力を身につけることができましたか。
4. 十分に身についた・・・4 (11.4%)
 3. かなり身についた・・・12 (34.3%)
 2. ある程度身についた・・・18 (51.4%)
 1. あまり身につかなかった・・・1 (2.9%)
- 4) 社会の中で豊かな人間関係を築き、相手を思いやりながらコミュニケーションをとる能力を身につけることができましたか。
4. 十分に身についた・・・6 (17.1%)
 3. かなり身についた・・・11 (31.4%)
 2. ある程度身についた・・・17 (48.6%)
 1. あまり身につかなかった・・・1 (2.9%)
- 5) 病気と薬に対する幅広い知識を修得し、医療人としての教養と探究心を身につけることができましたか。
4. 十分に身についた・・・6 (17.1%)
 3. かなり身についた・・・10 (28.6%)
 2. ある程度身についた・・・19 (54.3%)
 1. あまり身につかなかった・・・0 (0%)
- 6) 幅広いサイエンスの基礎を修得し、創薬に関する学識と実験技術を身につけることができましたか。
4. 十分に身についた・・・5 (14.3%)
 3. かなり身についた・・・17 (48.6%)
 2. ある程度身についた・・・13 (37.1%)
 1. あまり身につかなかった・・・0 (0%)

(出典：医薬系学務課資料)

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

薬学科の教育成果は、薬剤師国家試験合格率で一部判断できるものと考えられ、約 75% 以上と高率を維持しており、国公立大学の中でも上位の水準である。創薬科学科では、大学院進学率が 90% 以上を維持しており、学部教育の成果が十分に生かされていると判断できる。両学科の留年率データでは、1, 2 年次生の留年率がやや高くなっているが、それでも約 10% 前後であり、また学年進行に伴って留年者は大きく減少している。卒業研究の成果は学術誌・学会にて数多く発表されており、また一部は発表賞受賞の成果にも現れている。本学部の教育方針に沿った学習内容が、効果的に学生の学業成果に結びついているものと思われる。

学習達成度に関する卒業生への自己評価アンケートでは、学位授与方針に沿った成果が身に付いたと判断している割合が両学科とも高かった。

以上から、学業の成果に関しては、期待される水準にあると判断した。

観点2 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

薬学科及び創薬科学科の進路・就職状況は、資料2-2-1の通りである。薬学科については、病院または薬局にて薬剤師業務に就くものが約70%、製薬を含めた製造業には約10%であり、薬学科の就職率は、常に100%を維持している。一方、創薬科学科は、概ね90%以上が大学院博士前期課程に進学している。なお、本学部では創薬科学科を卒業した後、大学院博士前期課程から博士後期課程を経て薬剤師国家試験受験資格を得るコースを設けている。毎年度3、4人が本コースを希望している（資料2-2-2）。

資料2-2-1 薬学部卒業生の進路・就職状況**薬学科**

年度	卒業者	病院	薬局	製薬会社	その他	公務員	進学	備考
H23	53	18	12	10	6	4	3	
H24	53	15	25	6	5	2		
H25	56	14	23	5	4	6	4	
H26	50	21	19	3	1	4	2	
H27	54	25	15	3	6	1	4	

創薬科学科

年度	卒業者	病院	薬局	製薬会社	その他	公務員	進学	備考
H21	39				1		38	
H22	38			1	2		35	
H23	39			2	5		32	
H24	51		1		3	3	44	
H25	54	1		1	3		49	
H26	44				4		40	
H27	54		1	2	4		47	

(出典：医薬系学務課資料)

資料2-2-2 創薬科学科からの薬剤師国家試験受験資格コース希望者数

平成22年度3名 平成23年度3名 平成24年度4名 平成25年度3名
平成26年度4名 平成27年度4名

(出典：医薬系学務課統計資料)

本学部では、在学中の学業の成果が卒業後の就職先でどのように現れているか、またどのように就職先で評価されているかを検証する目的で、①卒業して数年が経過した卒業生、及び②卒業生を受け入れた就職先を対象として、アンケート調査を行っている。

①について、学位授与方針で掲げている「創造力」「責任感」「コミュニケーション能力」「幅広い知識」「専門知識等」の5項目に関しての実感を調査したところ、全ての設問において概ね80～90%からポジティブな回答が得られた（資料2-2-3）。

②については、社会人として求められる知識・能力・技術等について10の項目を設定し、上同等の関係者からの評価を集計した。その結果、ほとんどの項目において、「非常によい」「よい」の回答が80%を超える結果となった。一方、「外国語の語学力」の評価が全体から見るとやや低く、今後の学部教育における課題と考えられる。「採用してよかった」については、高評価の回答率が100%であった（資料2-2-4）。

資料 2-2-3 薬学部卒業生への卒業後アンケート集計結果

創造力**学位授与方針**

創薬科学科 医療人として薬科学関連分野の基礎的スキルを習得し、病気に対する深い洞察力ならびに創薬に対する旺盛な好奇心を有し、報告書や論文などの形あるものを生み出すことができる。

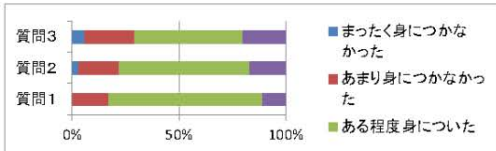
薬学科 医療人として薬学関連分野の基礎的スキルを習得し、病気と薬に対する深い洞察力や諸事象を的確にとらえる柔軟な姿勢を身につけ、報告書や論文などの形あるものを生み出すことができる。また、その成果を的確にプレゼンテーションすることができる。

質問1 薬学に関する分野の課題を自分で積極的に見出し解決する能力が身についたと思いますか

質問2 薬学に関する分野の知識・実験技術・実務技術等の修得により、社会で活躍できる能力が身についたと思いますか

質問3 自分が学んだこと、実践したこと、あるいは調査したこと等を、的確にプレゼンテーションする能力が身についたと思いますか

	質問1	質問2	質問3
まったく身につかなかった	0%	3%	6%
あまり身につかなかった	17%	19%	23%
ある程度身についた	72%	61%	51%
かなり身についた	11%	17%	20%

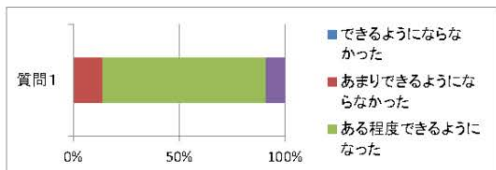
**責任感****学位授与方針**

医療人の一員であることを自覚し、規律、倫理等を守り、自分の果たすべき役割を認識して的確に行動することができる。

質問1 自分が所属する組織や社会の中で、自分が果たすべき役割を認識し、的確に行動することができるようになったと思いますか

できるようにならなかった	0%
あまりできるようにならなかった	14%
ある程度できるようになった	77%
かなりできるようになった	9%

質問1

**コミュニケーション能力****学位授与方針**

多様な社会の中で、相手に働きかけて意思の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができる。

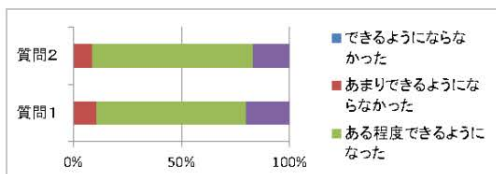
質問1 自分が所属する組織や社会の中で、相手と自分の立場や諸事情を理解して、的確にコミュニケーションをとることができるようになったと思いますか

質問2 異なる考えや異なるバックグラウンドを持つ人達を理解して、的確にコミュニケーションをとることができるようになったと思いますか

できるようにならなかった	0%	0%
あまりできるようにならなかった	11%	9%
ある程度できるようになった	69%	74%
かなりできるようになった	20%	17%

質問1

質問2

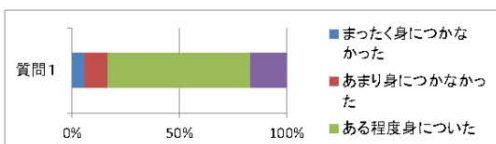
**幅広い知識****学位授与方針**

様々な観点から病気と薬に対する理解を豊かにし、優れた知性、智力、情操を有する人間性を育むことができる。

質問1 薬学に関する分野の専門家として幅広い知識や探究心が身についたと思いますか

まったく身につかなかった	6%
あまり身につかなかった	11%
ある程度身についた	67%
かなり身についた	17%

質問1



専門的知識

学位授与方針

創薬科学科 最新の学問的基盤から伝統医薬に渡る幅広いサイエンスの基礎を修得し、薬学研究に適切に取り組むことができる

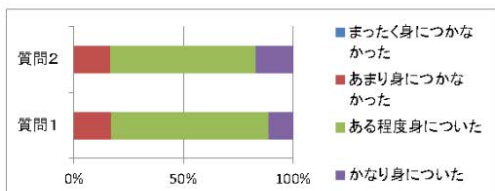
創薬・ライフサイエンスに関する豊富な学識と実験技術を有し、関連分野で活躍できる能力を備えることができる

薬学科 医薬品の安全性と薬効に関する豊富な学識を有し、かつ医薬品に関する情報を自ら収集・把握し、適正な薬物治療に積極的に寄与できる
創薬・臨床研究に対する豊富な知識を有し、研究に対する積極的な姿勢を身に付けることができる

質問1 薬学に関する分野の基礎的スキルが身についたと思いますか

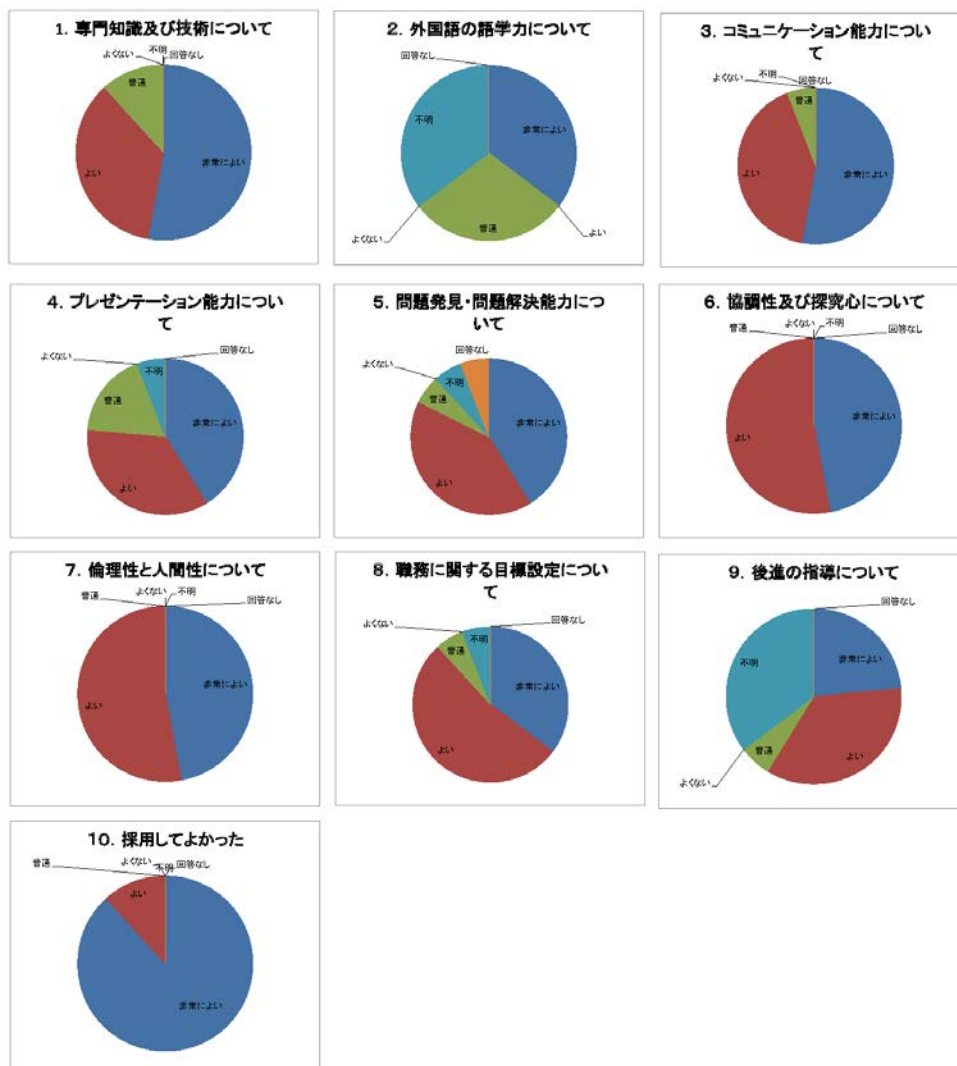
質問2 薬学に関する分野についての情報を的確に収集・把握し、自分の仕事に生かす能力が身についたと思いますか

	質問1	質問2
まったく身につかなかった	0%	0%
あまり身につかなかった	17%	17%
ある程度身についた	72%	67%
かなり身についた	11%	17%



(出典：医薬系学務課資料)

資料 2-2-4 就職先の関係者に対するアンケート結果



(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

薬学科の卒業生は、ここ数年 100%の就職率を維持しており、大学院博士課程への進学者も一定数を確保している。創薬科学科は、卒業生の多くが大学院博士前期課程に進学しており、研究に対するモチベーションが高い。

卒業後、数年を経過した卒業生のアンケートからは、8割以上の卒業生が本学部の教育の成果を生かしているものと回答している。また就職先企業のアンケートでは、100%の企業から採用して良かった旨の回答が得られている。

以上から、進路・就職の状況に関しては、期待される水準にあると判断した。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

高い水準を維持しているものと判断する。

平成 27 年度入学生から適用された 6 年制薬学教育「新モデル・コアカリキュラム」に対応するため、カリキュラム改訂ワーキンググループを立ち上げ、薬学科生の教育カリキュラムの見直しを実施した。これにより、専門基礎系がスリム化され、臨床・実務系の比重が増した新カリキュラムへと改訂された。また、薬学準備教育ガイドラインに記載されている「人の行動と心理」の準備教育に対応するため、教養教育科目「行動科学」を必修化した。また創薬科学科においても、同時にカリキュラム見直しを行い、これまで自由科目であった「製薬企業と創薬」を必修化するなど、創薬研究者養成という教育目的をより効率よく達成するための改訂を実施した。

薬学科生の卒業研究については、これまでどおり 4 年次の 2 月にポスター形式の中間発表会を行っている。平成 23 年度に薬学科 1 期生が 6 年次生となり、当年度から口頭発表形式の卒業研究発表会を 11 月に実施することとし、研究のデータ整理とまとめ、またプレゼンテーション力を養うための重要な機会と位置づけている。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

高い水準を維持しているものと判断する。

薬学科生の薬剤師国家試験合格率については、新課程 1 期生（平成 23 年度）以降、高い合格率を維持している。5 年次、6 年次での留年率がほぼゼロの状況下で、新卒者が常に 75%を超える合格率となっていることは、高い水準であるとして特筆すべき点である。

卒業研究の成果は、薬学科・創薬科学科を問わず、多くの論文・学会発表がなされており、1 年次から積み上げてきた教育の成果が現れているものと考えられる。これらのことは、概ね良好な回答が得られた教育成果に関する就職先アンケート結果にも現れている。